

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	かんさいそうかこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	関西創価高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 生徒数 1075名 (2014年度) 同キャンパスに中学校を併設	
普通科	359	357	359		1075		
⑥研究開発構想名	TRY 人(じん)の郷・交野から 平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム						
⑦研究開発の概要	<u>Active Learning の土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む教育活動を高大連携して開発する。</u>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>1600年前に日本に技術を伝えた渡来人が住み着いたとされる交野。21世紀はこの交野より世界へ飛び立ち、<u>地球的課題の解決に果敢に挑み、世界の平和に貢献するグローバルリーダーを育成することを目的とする。</u></p> <p>SGHAとして2014年度に取り組んだプログラムをさらに発展させ、創価大学・アメリカ創価大学・オタゴ大学等の高大連携を強力に推進し、UNDP等国際機関とも提携して、地球の今を学び、体験し、問題解決へ発信する新教育プログラムを作り上げる。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>最近5年間における海外大学進学者数の累計は53名であり、本校から創価大学に進学した者の40%は留学等海外経験を行うなど意識は高いが、さらなる語学力の向上や主体的な学びの姿勢を育む授業改革が必要であり、高大連携してのActive Learning、ICT教育に取り組むことで大きく改善が期待できる。</p> <p>生徒自ら地球的課題に挑み解決しようとする「使命感」は、第一に世界の現状を知り、苦しみを分かち合う「共感力」の向上の中で培われるものであると信じる。</p> <p><u>世界が課題とする「環境・開発・人権・平和」の4分野について、大学、国際機関、企業と提携し、国連が具体的に提起している諸問題を探究し、生徒たちがチームとして新たな視点からその解決を目指すプロセスを確立することとする。</u></p> <p>そのため、教育の根幹たる授業において、友と協力し自ら学ぶ学習スタイルを確立することが今後のグローバルリーダー育成の取り組みの土台となるので、Active Learningを全教科にわたり積極的に導入するべきである。その基礎の上に、全員で取り組む探究型総合学習GRITでの「環境・開発・人権・平和」の4分野の学びはより進むものと確信する。さらに興味関心を抱く希望者には、高大連携プログラムとして、SP(SOKA Progress)クラスと呼ばれるグローバルイシューの基礎講座を実施。そこで学びを深めた生徒からさらに選抜して、国際機関と提携してのLC(Learning Cluster)プログラムを行う。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>専用WEBサイトでの発信とともに、他の指定校と連携しながら、SGH教育報告会を開催。またオープンキャンパスにおいて、内外に向けた取り組み成果の報告を行う。新たに開発した教材はデジタル化し、広く公開していく。</p>					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 グローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力の育成を図るため、「<u>環境・開発・人権・平和</u>」の4分野について国連が具体的に提起している諸問題を探究し、チームとして解決方法を目指すプロセスを確立する。 ※コアとなるグローバルイシューは、「ポスト2015 開発アジェンダ」の検討内容を中心として各チームがテーマを設定し探求する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>①<u>探究型総合学習 GRIT (Global Research and Inquiry Time)</u> ○土曜日に実施 ○全校生徒を対象 ○「環境・開発・人権・平和」の4分野について大学・国際機関・企業と提携し探究活動 ○大学院生を各クラスに TA として配置 ○1年生「環境・開発」 2年生「人権・平和」 3年生では模擬国連と論文作成 ○GRIT 講演会 Global Citizenship Seminar を学期毎に開催 ○全員が EarthKAM を体験し、宇宙から地球を見つめる視点を育成 ○「天の川ホタル復活プロジェクト」で自然との共生の心を育む</p> <p>②<u>高大連携プログラム SP (SOKA Progress) Class</u> ○希望者を対象 ○グローバルリーダーの資質向上に資する連続講座 ○提携大学・国際機関から講師を招き実施する UP(University Partnership)Class ○2015 年度から単位を付与 ○GRIT を推進し、LC へつなぐ</p> <p>③<u>国際機関と提携して行う先進的な特設プログラム LC (Learning Cluster)</u> ○2・3 年生の希望者から最大 32 名 (2015 年度は 20 名を予定) を選抜 ○4 名 1 チームで 4 分野からコアとなるテーマを設定 ○活動の全ては英語 ○創価大学と提携した東京・アジアフィールドワーク ○アメリカ創価大学と提携したカリフォルニア環境人権平和フィールドワーク ○UNDP と提携した開発フィールドワーク</p> <p>④<u>高大連携で授業改善 — 友と協力し自ら学ぶ Active Learning を強力に展開</u> ○全ての課題研究の推進の土台として、主体性あふれる学びの姿勢を築く ○ICT 教育も同時に研究、推進 ○創価大学教育学部と提携し全教科で導入</p> <p>検証評価 学年・学期毎に SGH 委員会が作成したルーブリック評価を導入し、生徒の変容を評価するとともに、提携大学関係者を交えた評価委員会により行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>①<u>留学生と地球的課題を語るプログラム Global Camp</u> ②<u>語学力向上の取り組みを強化</u> ○Critical Writing Center の設置 外国人講師が face to face で添削指導他</p> <p>③<u>世界に、社会に目を向ける NIE (Newspaper in Education)</u> ④<u>日本人としての identity を育成する Feel Japan Program</u> ○海外高校生徒との共同生活体験 ○留学生への古都案内 ○国語の授業、図書館、クラブでの「日本文化」の深化など</p> <p>検証評価 教養とリーダーとしての資質向上を期し、授業連携や読書教育をさらに進める。各種コンテストの参加数、生徒へのアンケートをもって検証評価を行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。 (3) <u>グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の取組内容・実施方法</u> ①校長を長とする SGH 委員会等教職員体制の整備、強化 ②保護者の意識変革 ③専用 WEB サイトの開設 ④図書館に「環境・開発・平和・人権」「グローバルビジネス」専用書架の設置 ⑤SGH カリキュラムを含め研究開発計画に沿って実施</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>提携校の創価大学は SGU であり、本校の研究開発を効果的に進めることができる。</p>